

（公財）中村元東方研究所／東方学院

東方だより

令和3年度後期号（通号第39号）

〒101-0021
東京都千代田区外神田 2-17-2
延寿お茶の水ビル 4階
TEL：03-3251-4081
FAX：03-3251-4082
<http://www.toho.or.jp>
<https://www.toho-gakuin.org>

理事長最後のご挨拶

前田専學理事長



一九九六（平成八）年十二月二六日、神田明神会館で行われた財団法人東方研究会の忘年会に出席した時のことであつた。中村元先生が感慨深げにやや天井を見つめながら、

「あつという間に一年が過ぎようとしています。最後の歌人良寛に

形見とて なに遺すらん 春は花 夏ほととぎす 秋はもみじ葉
という歌があります。私の場合には、何を遺すか、というのと、何も遺さなかったかもしれないが、一つだけ人様に言えることがあります。それは東方研究会の事です。他の学問をしている方々とは違って、われわれの祖先に伝えられている美しい純な気持ちを皆さんが伝えてい

る。この美しい精神を残していられしやるから、私の場合は、この遺憾に通ずるものがあるように思います。……」（当日の録音テープから）

と挨拶された姿が今も眼前に彷彿と浮かぶ。この時私は中村先生の所作・表情などから大切な遺産を渡したときの安堵感を感じたのである。

思うに、中村先生は一九九九年一〇月一〇日に亡くなられたが、その四年前の誕生日に、長い間懸案になっていた「慈しみ」を墓碑銘とすることを発願され、令夫人洛子様が墨書されて、一九九七年の洛子夫人の誕生日に完成したと関係があるように推測される。

目次

理事長ご挨拶	1頁
芳名録	2・3頁
講師・研究会員・研究員の声	5頁
行事報告・今後の行事	8・9頁
新刊紹介	2・3・8・9頁
事務局通信	10頁



その墓碑は東京近郊の多摩霊園に建てられ、同じ文言が彫られた松江名産の来待石の石碑が、二〇一二年一〇月一〇日、中村先生のご生誕地松江に中村元記念館が創立された際に、記念館のある同市八束町の大塚山でお披露目された。

今年は中村元記念館創立一〇周年になる。さらに日印国交樹立七〇周年の記念の年でもある。この際、同記念館が日印両国の架け橋としてさらに飛躍するように、また同記念館を支えてきた山陰中央新報社の創刊一四〇周年を記念して、『山陰中央新報』一面に掲載し、好評をえている「中村元「慈しみの心」の約一年分、「慈しみ」ではじまり「慈悲」で終わる三五六編を書籍として出版することになったと言うことである。

中村先生の思いを受け継ぎたいと、山陰中央新報社から連載「中村元「慈しみの心」の企画が私のもとにもたらされたのは、二〇一五年のちょうど一七回忌の日であつた。私一人では不可能と思い、早速中村先生の愛弟子の一人奈良康明先生と相談し、幸い快諾をえたので、連載は同年一月一日から開始された。慈悲と智慧に満ちたブツダの言葉を解説付きで紹介し、その後、引用の典拠も徐々に広がり、仏弟子は勿論、大乘の諸経典、道元・親鸞などの日本仏教の名僧などに至るまでも引用されている。

中村先生がかみ砕いて「慈しみ」とも「温かいところ」とも言われた「慈悲」の精神が、何時何時までも創立五〇周年を越えた本研究所で、来年創立五〇周年を迎える東方学院で、中村元記念館で、そして出来るだけ多くの方々に実践され、人から人へと伝えられて行くことを願っている。

理事ご紹介

「慈しみの心」に 衿を正して 笛木敬代理事



第六波目のコロナ禍にざわめく大晦日、掛け替える筈のカレンダーについて目を止め手を止めた。「人々が生き

るための無私の支援なら、どうして武力が必要でしょうか」「真の人類共通の文化遺産は、平和と相互扶助の精神である」「水が善人、悪人を区別しないようにだれとでも協力し、世界がどうなろうと、他にのがれようがない人々が人間らしくいきられるよう、ここで力を尽くします」いずれの言葉もアフガニスタンの復興に生涯をかけた医師の中村哲さんの残したもので、ペシャワールの会のカレンダーに記されているものだ。氏の生涯と現地で継続される会の活動を思い、改めて感銘を受けた。いまや私たちはスマートフォンという曼荼羅を持ち歩き、クリック一つ言葉一つで見知らぬ誰かを慰めることも、貶めることも容易になった。様々な今日の出来事も、

地域紛争も、環境破壊による自然災害も世界規模で俯瞰できる社会だ。一方で、その道具の使い手である私たち人間の精神はどれほどの進歩を遂げただろうか? 「人間が想像できることは必ずほかの誰かが実現できる」と希望に満ちた格言を残したのはジュール・ヴェルヌだが、その言葉を信じて、公正さや法愛が地位や権力、快適さ、特権以上に重要な清々しい社会の実現を希求し続けたい。

当法人の東方学院はまもなく創立五十周年を迎えるが、法人の理念に『人間の回復』と『慈しみの心』を掲げている。中村元博士は世界思想史四巻をもって、博士の研究と人生の集大成となる中村元選集四〇巻を完成された。博士が比較思想、普遍思想の研究を通じて、世界中の人々の平和と幸福の実現に寄与したいと考えていたことは周知の事実である。微力ながらもこの掲げられた理念をバニアンツリーの木根のごとく、社会に根付かせていきたい。

時を超え交差する中村哲医師と中村元博士の異楊同夢の慈悲のところに、自らの衿を正す新春である。

ふえき たかよ

1966年宇都宮市生まれ。武蔵大学人文学部欧米文化学科卒業。輸入専門商社、PR総合代理店勤務を経て1997年よりスポンタネアティ主宰。企業の社会貢献事業やブランディング等のコミュニケーション活動に従事。

新刊案内

前田専學著『ラフカディオ・ハーン —源郷としてのインド—』

インド哲学の第一人者による、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)論。ハーンが仏教やヒンドゥー教に強い関心と深い知識を持っていたことを明らかにする。怪談文学や歴史に注目した従来の研究では見えてこなかった、全く新しいハーンの姿を描き出す。



単行本: 322頁
出版社: 春秋社
発売日: 2021年10月20日

ISBN-13: 978-4-393-11279-3
言語: 日本語
定価: 本体5,170円(税込)

中村元東方研究所

理事を務めて

清水谷善圭理事



理事に就任して早四年が過ぎようとしています。最初は事業規模の大きさと公益財団法人の運営の大変さに驚くばかりでしたが、最近になってようやく様々なことが理解できるようになりました。特に、本研究所の社会における存在意義を改めて認識するとともに、発展的な未来のために如何にあるべきか、ということにも思いを致しております。

理系や実学が重んじられる現代社会では、心が荒み、進むべき道を見いだせずにいる人が少なくありません。こうした混迷の時代からこそ、思想や哲学、宗教の研究が果たすべき役割は大きいはずです。また、コロナ禍で社会構造や生活様式が激変し、研究や教育もこれまでとは全く異なった有り様が求められています。これら社会からの要請に対応すべく、長期的な展望に基づいた組織作りは当研究所にとって急務だと考えます。関係各位が知恵を出し合い、未来を見据えた真剣な議論の場

が持たれることを切に願っております。

また、これからは広報活動にも力を注いでいくべきではないでしょうか。中村先生の学問や当研究所の研究成果を専門家や一部の教養人だけのものにするのではなく、より幅広い層の人々に知っていただくことが、当研究所の未来を切り拓く道となるからです。その意味で、現在進行中だという先生の著作データーベース化はまさしく時機にかなった取り組みと敬意を表します。

現在の事務局では、釋悟震先生を中心に研究員の方々が研究の合間を縫って自主的に膨大な事務作業を担っております。ご苦労を知るにつけ、感謝の念とともに何とかご負担を軽減できないものかと思案してみるのが、なかなか具体的な改善策にはつなげられません。このように、理事としての役目を果たせないことに忸怩たる思いでおりますが、当研究所が心のよりどころを見失った人々にとって光明を見出す学び舎となるよう、微力ながらこれからも努めてまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



合掌

しみずたに ぜんけい

1947年兵庫県生まれ。大正大学仏教学部天台学科を卒業後、瑞光山清水寺（島根県安来市）入山。清水寺副住職を経て1980年より清水寺第6世貫主。現在、特定非営利法人中村元東洋思想文化研究所理事長、島根県仏教会長、安来市仏教会長全日本仏教会第34期副会長。その他、第45回全日本仏教徒会議島根大会長など歴任。

新 刊 案 内

渡邊寶陽著・高森大乘校訂 『法華三部經大講義』 全五冊

渡邊寶陽氏が、宗教文化誌『法華』（一般財団法人法華会）に永年連載された「連続講話 妙法蓮華經のこころ」全篇を収載し、新たに法華三部經開經の『無量義經』と結經の『觀普賢菩薩行法經』の講義を加えました。第5巻には、索用USBメモリが附録として同梱されています。

単行本：212頁（1巻）他、全1,834頁
出版社：日蓮宗新聞社
発売日：2021年8月4日

ISBN-13：978-4-89045-178-4（1巻）他
言語：日本語
定価：本体20,900円（税込）



令和3年度芳名録（五十音順・敬称略）

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。

※令和4年1月27日受領分までを掲載しております。

維持会員

一心寺 石上和敬 宇杉真 小笠原勝治 川崎信定 川崎寿子 川崎大師平間寺 来馬明規 克念社 宗教法人西来寺 史跡足利学校事務所 清水谷善圭 釈
悟震 株式会社春秋社 淳心会（日野紹運） 末廣照純 浅草寺 高崎宏子 高橋堯英 多田孝文 中央芸術研究所 千綿道人 津田眞一 角田泰隆 トヨタ自
動車株式会社 中田直道 成田山新勝寺 念法眞教金剛寺（桶屋良祐） 羽矢辰夫 公益財団法人仏教伝道協会 法恩寺（藤原敏文） 法清寺（奈良修一） 前田
専學 前田式子 松久保秀胤 丸井浩 三木純子 水野善文 薬王院 吉田宏哲 渡邊信之

賛助会員

秋葉佳伸 阿部敦子 栗野芳夫 飯高淑子 石井勝彦 一島正真 今西順吉 石上智康 臼井ふじ子 遠藤康 大井玄 太田正孝 大谷光真 小笠原隆元 岡
田真水 緒方康信 奥住毅 オリオン産業株式会社 桂紹隆 加藤みち子 菅野博史 北村彰宏 木村清孝 窪田成圓 倉田治夫 黒川文子 黒田大雲 小林
正和 小林守 小林和子 小峰啓誉 古村けさじ 小山典勇 斎藤明 齊之平伸一 佐久間秀範 佐久間留理子 櫻井瑞彦 櫻井隆広 桜井俊彦 慈光院（戸
田忠） 真観寺（中村重継） 末木文美土 菅沼莊二郎 須佐知行 鈴木一馨 鈴木忠一 鈴木勇介 関戸堯海 高橋審也 高松孝行 高松榮子 田上太秀 武
田浩学 立花ひろ子 田中勝洋 田中ケネス 田丸淑子 千葉よし子 鶴谷志磨子 天寧寺（永江雅邦） 當間哲也 公益財団法人東洋哲学研究所 一般財団法人
人徳育経営研究所 戸田裕久 鳥山玲 中谷信一 長野市南長野仏教会 中村行明 中村久夫 西尾秀生 西岡祖秀 西川高史 西宮寛 日本ヨーガ学会 日
本ヨーガ禅道院 野津一成 畠中光亨 花岡秀哉 馬場孝至 一月正人 平井恭子 笛木敬代 福重利夫 福留順子 福原正直 身延別院（藤井教公） 藤井知
興 宗教法人法雲寺（水谷浩志） 寶幢院（原隆政） 堀江順司 堀越教之 松浦和也 松本知巳 的場裕子 三木保 水谷俊一 三友量順 宮元啓一 弥勒密
寺（上村正剛） 森祖道 宗教法人薬師院（松原光法） 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 桂徳院（山本文溪） 好井瑞皖 渡邊實陽

東方学院後援会

新井順證 今宮戎神社 大神神社 奥田聖應 加藤公啓 加藤公俊 健代和央 古泉圓順 坂本峰徳 総本山四天王寺 四天王寺大学 学校法人清風学園 瀧
藤尊淳 塚原昭應 唐招提寺 宗教法人東大寺 念法眞教 平岡英信 南谷恵敬 宮崎光映 森田惇朗 森田俊朗 山岡武明 吉田明良

ご寄付

光地英隆 岡村光展 在家仏教協会 釈悟震 佐藤恭子 朴炳建

東方学院創立50周年記念事業ご寄付

石上善應 石上源應 龍口明生 佐藤恭子

学院50周年 多くの方々の温かいご理解とご支援によりまして、公益財団法人中村元東方研究所は去る2020年11月、東方学院は2023年4月に、それぞれ創立50周年
をを迎えようとしております。そこで、来たる2023年度に東方研究所／東方学院の50周年を併せた記念誌の刊行および記念行事を予定しております。他方、
新型コロナウイルスをめぐる難儀の世相におきまして、皆様厳しい状況をおられることと拝察し、同実行委員会では当該行事のための経費を最小
限に抑えて遂行すべく事業の見直しを図っている現状でございます。このような世状にもかかわらず、中村元先生の御雄志の継承と存続のためにと、当該記念
行事遂行にご賛同下さる方々からの御芳志を頂戴いたしましたこと深く御礼申し上げます。

東方学院

講師ご紹介

竹村牧男 講師

（東京本校）

仏教哲学に魅せられて



私が仏教の研究を志したのは、もう五〇年以上も前、浪人時代

でした。岡潔の本に影響されて、仏教において西洋では届かない奥深い真理が解明されていると感じたことから、その真理を究明したいと思ったのです。大学に入ると、禅のサークルに入り、やがて秋月龍珉先生に就いて禅思想を学ぶようになりました。ちょうど大学紛争が吹き荒れた時代でしたが、印度哲学科に進学、その後、大学院にも進みました。

ち、筑波大学の教官時代に、ようやく三性説の研究により学位を得ましたが、その間、『大乘起信論』、華嚴思想をも探究し、一方、鈴木大拙や西田幾多郎の宗教哲学の解読をも目指しました。

東洋大学の教員に移籍してから、担当が日本仏教だったので、天台法華・浄土・禅などの仏教について講義するようになり、日本仏教史も私の関心の的になりました。その中には、華嚴の上を行くと主張する密教があり、次第に特に空海の密教思想の解明が私の課題となったのです。ということ、近年はもっぱら空海思想に取り組んでおります。

しかし密教の根底には華嚴思想があるように思われます。この東方学院では、もう一度、華嚴思想を学び直したいと思い、当分、『華嚴五教章』を講読したいと思っています。おります。

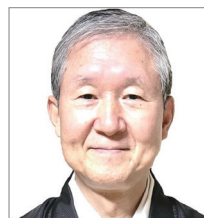
たけむら まきお

1948年東京都生まれ。東京大学文学部卒、同大学院博士課程中退。文化庁専門職員、三重大学、筑波大学を経て、2002年、東洋大学文学部教授に就任。2009年9月より2020年3月まで、東洋大学学長。

山口 務 講師

（関西校）

研究者と文献との出会い



研究者にとって最も大切な出会いは研究者を指導して下さる恩師との出会い

であることは全分野の研究者に共通しますが、文献を扱う研究者にとつて第二に大切な出会いはそれぞれの研究を方向づける文献との出会いであると思います。私の場合は一九八二年一二月にスリランカの地中から発見された七枚の黄金製プレートに刻まれていた『二万五千頌般若経』のサンスクリット写本との出会いを挙げることでできます。大乘仏典の一種である『般若経』がいわゆる小乗仏教国のスリランカに伝わっていたこと自体が驚きですが、それ以上のインパクトは『二万五千頌般若経』のサンスクリット刊本が注釈書『現観莊嚴論』の影響によって

改変された写本に基づいているのに対してスリランカ出土の写本は改変されていないサンスクリット写本の一部であることが判明したことです。そして、その中に刻まれている天眼通の定型句を原始仏典等のそれと比較することは「般若経」の成立史的研究を志す私にとつて有益なもので、それ以降の他の定型句に関する比較研究のための良い契機となりました。

そうして、原始仏典を和訳する機会に恵まれたこともあり、東方学院ではゴータマ・ブッダ（釈尊）の直説が含まれている可能性が高い『スッタニパータ』のパーリ原典を文法に重点を置きながら読み進めています。諸先生の和訳を参照していますと、原典の難解な語句に対して全力で向き合われている諸先生の真摯な姿に背筋が伸びる思いがします。

やまぐち つとむ

1953年北海道生まれ、北海道大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学、現在、真宗大谷派願照寺住職。論文「スリランカ出土の *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā* について」（『佛教学』18, pp1-29）など、共訳書『原始仏典第6巻中部経典Ⅲ』（春秋社）。

東方学院
研究会員の声

神田英昭さん

(東京本校)

仏法を学ぶ悦び

わたしは、中村元先生の御尊顔を一度だけ拝する機会がありました。それは約二五年前くらいのこと。叔母に連れられて、鶴岡八幡宮で開かれた東方学院の夏季講座に参加した時のことです。その講座では聖徳太子について、様々な研究発表が行われたと記憶しております。その頃の自分には発表の内容が難しすぎてチンプンカンプンでした。そして研究発表の最後に中村元先生のお話がありました。とても柔和なお顔だと思いました。先生は「東方学院は、まるでプラトンの学園「アカデメイア」のような場所だ」と仰っていました。後に、自分自身がそのアカデメイアで勉強できるとは、露ほども思っていないませんでした。

それから時が経ち、ご縁あつて高野山へと上がり、大学院博士課程まで学術を研鑽する機会を得ました。高野山で仏教を学ぶことが大好きになり、さらには求道の志も高まり、次にタイのバンコクへ行って上座仏教の比丘として黄衣を纏い、僧院生活を送ることも叶いました。

二〇一四年に帰国してから、中村先生の著作を再び読みはじめました。その著作において展開される、仏教をはじめとするインド思想、そして東西の哲学をも包含する宇宙的な知見の深さに圧倒されました。



その中村元先生が作られた学びの学園「東方学院」で学び、人生の苦から脱れるヒントをいただいております。仏法に出会えたご縁に感謝し、日々その喜びを感じております。中村先生、大感謝しております。ありがとうございます。

狐墳英毅さん

(東京本校)

前田専學先生と
史跡「足利學校」のご縁に感謝



足利市に在る日本最古の学校、史跡「足利學校」を、私たち市民は親しみと尊敬を込め「学校様」と呼んでいます。この復原改修工事が平成二

(二九九〇)年に完成し、平成六(一九九四)年現代の初代「足利學校」座主(しようしゅ)校長先生)中村元先生から、平成一三(二〇〇一)年一月、二代目座主は、前田専學先生に承継されました。前田専學先生は、恩師の中村元先生同様研究所理事長・学院長の傍ら二〇二〇年一月二三日迄二十年間の長きに亘り多大な功績を残されました。平成二七(二〇一五)年四月二四日には、足利市(足利學校)を含む水戸市(弘道館)・備前市(閑谷學校)・日田市(咸宜園)の四市で共同申請した「近世日本の教育遺産群・学ぶ心・礼節の本源」が、「日本遺産」に認定されました。仏教界の世界的権威である中村元、前田専學両先生は、「足利學校」を日本遺産認定と世界遺産登録への道筋を切り拓いて戴いた導師であり大功労者であり大恩人です。それは、生涯学習を目指す足利市民にとって、「足利學校」は「象徴」であり、「誇り」であり、「国の宝」であるからです。私も「学ぶ心と礼節の本源」「慈しみの心」を研究会員の魂として生涯修養に励む所存です。また、一十年前、足利學校を聖地に財団設立の際には、一方ならぬ高配を賜りました。前田先生、誠に有難うございました。私の初学「仏教入門」への温かいご教授と合わせまして、心より感謝申し上げます。今後とも、健康に留意され、私たちを「真理の世界」へお導きください。感謝合掌

川端淳子さん

(関西校)

驚きと感動の時間

ドイツに在住して三〇年になります。これまでミュンヘン観光局公認のガイドをしておりましたが、コロナ禍で時間に余裕ができたので、オンラインでヨーガの勉強を始めました。

その後、日本に帰国した時に、大阪のカルチャーセンターで西尾秀生先生の「インド神話」を受講致しました。ドイツに戻ってから引き続き学びたかったので、東方学院の「ヒンドウー教入門」をオンラインで受講することに決めました。授業は毎週ありますので、継続して深くインドの宗教を学ぶことができます。

これまで独日趣味の会などで、日本に興味をもつ人々を対象に、日本の寺院や仏教の話をしてきました。ところが東方学院でインドの宗教を学ぶようになって、ジグゾーパズルが埋まっていくように、インドから日本まで、そしてヨーロッパまでも繋がっているような気がしてきました。また東方学院を設立された中村元先生は、ヴェーダーンタ哲学のドイツの研究者にもよく知られており、世界が広がるように感じております。



研究員の声

吉村均 専任研究員

主体としての身体や 自然、その声を聞く

新型コロナウイルスの流行で生活のあり方が大きく変わり、二年近くになります。

何十年前も前、研究者となることを考えていた頃、ある授業で「西洋のデカルト的な心身二元論は、心を主体、身体を客体と捉えていて、心と体が別々なのではなく、捉える視点がそもそも違う」ということを聞き、なるほど、と思いました。

心が身体や自然を道具として使うことは、社会の飛躍的な発展、便利さをもたらしました。しかしその一方で、身心の不調や自然破壊、地球温暖化によって地球を私たちが住むことのできない場所にしかねないところまで来ています。



ユングは、無意識を発見したフロイトの弟子で

したが、師が無意識を抑圧されたものとのみ捉えることに不満をおぼえ、無意識の奥底には個を超えた創造性に連なる領域があると、決別しました。精神的な孤立のなかで、東洋の思想には、自分の考える個を超えた無意識を重視し、生かす技法があると、東洋思想への関心を深めていきました（『東洋的瞑想の心理学』創元社）。

東洋の思想では、修行や聖地巡礼などによって、体や、体を通じてつながっている自然の声を聞き、心を変容させていくことが重視されます。

私が研究によって明らかにしたことは微々たるものですが、勉強を始めた頃は宗教としての未発達さとして捉えられがちだったそれらの要素は、私たちが直面しているさまざまな問題について、選択すべき道を考える鍵となると思います。

よしむら ひとし

1961年東京都生まれ。東京大学文学部卒業、同大学院人文科学研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員（DC）を経て現職。著書『空海に学ぶ仏教入門』『チベット仏教入門』『神と仏の倫理思想【改訂版】』ほか。

高柳さつき 専任研究員

色川大吉先生のこと



昨年、九月に歴史家の色川大吉先生がお亡くなりになった。

郷土史家である私の父が昔から色川先生とご一緒に活動していた関係で、私も幼い頃から顔見知り程度ではあるが面識があった。私の家に先生がいらつしやつた際に、母が「とても偉い先生なのよ」と言ったことを覚えている。

私自身は先生と直接交流があることはなかったが、先生が東京経済大学を定年退職される際に、本の整理をお願いしたところ（私の家は古本屋を営んでいる）、気持ちよく任せてくださったことをきっかけに、二年間ほど東経大の授業の聴講をさせていただいた。

講義では自由民権運動、五市市憲法、水俣病、自分史等の先生の御研究や活動の裏話を聞くことが

できるのが面白かった。先生が『明治精神史』は自分ではなく何かに憑かれるような思いで書いた。その後はそういう感覚があったことは一度もない」と穏やかな表情で言い切られたことには凄みを感じた。

私が中村元東方研究所（当時は東方研究会）への所属が決まった際に、ご報告する機会があった。「中村元先生がつくられた研究所で」と説明すると、「げんさんのところですか」とおっしゃった。「げん」ではなく「はじめ」です」と訂正すると、先生は「皆、げんさんと呼んでいるのですよ」と笑っていらつしやつた。そのときはそれ以上話は進展しなかったが、今から思うと、お二人にどのような御縁があったのかきちんと伺っておくべきだったと悔やまれる。

たかやなぎ さつき

1966年生まれ。早稲田大学商学部卒。東京大学大学院人文社会研究科インド哲学仏教学専修課程修了、博士（文学）。日本中世仏教思想。現在、武蔵野大学非常勤講師。最近の論文は、「教月要文集」の思想—『宗鏡録』の一心依用の観点から（2019、『中世禅への新視角 中世禅籍叢刊別巻』）。

行事 イベント 報告

令和3年10月8日(金)開催

中村元博士23回忌 記念講演会

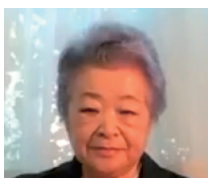
於オンライン

創設者中村元博士(1912-1999)の23回忌にあたり、令和3年10月8日午後2時〜午後3時30分、「記念講演会」をZOOMによるオンライン形式にて開催しました。

講師は、釈悟震先生(中村元東方研究所常務理事兼東方学院講師)「いまなお新しい中村元博士の叡智」、および



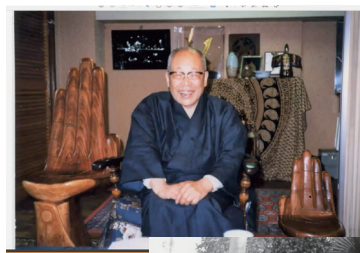
釈悟震講師



三木純子氏

講演会は、80名の出席者を得て、
「父の23回忌に寄せて」でした。

中村元博士をしのび、和やかでしめやかな雰囲気の中、盛会のうちに円了しました。



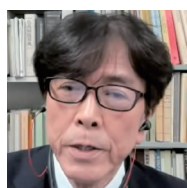
三木氏所蔵の
写真が紹介され
ました



中村元東方学術賞・ 中村元東方学術奨励賞 授賞式

於オンライン

令和3年10月8日(金)開催



下田正弘教授

「父の23回忌に寄せて」でした。

公益財団法人中村元東方研究所の顕彰事業の一環として、「第31回中村元東方学術賞」及び、若手研究者に贈られる「第7回中村元東方学術奨励賞」の授賞式が、ZOOMによるオンラインにて開催されました。



前田専學理事長よりオンライン上での賞状授与

おける新たな人文
学である人文情報
学の推進に大きく
貢献したこと等が
授賞の理由となり
ました。

代理大使より「功績証明書」が授
与され、馬場紀
寿東京大学東洋
文化研究所教授
から祝辞が述べ
られました。



Sh. Mayank Joshi 駐日
インド国臨時代理大使

また、若手研究者を対象とした、
第7回中村元東方学術奨励賞を受
賞した、松川雅信氏(日本学術振
興会特別研究員PD)の『儒教儀
礼と近世日本社会―閻斎学派の

新 刊 案 内

羽矢辰夫著『ゴータマ・ブッダその先へ ―思想の全容解明』

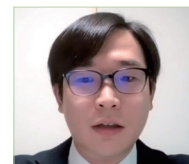


無常も、原因があって結果があることも現代のわれわれの常識だとしたら、ゴータマ・ブッダが見つけたものはなんだったのだろうか? 初期仏教の研究者である著者がその研究成果と実体験を活かし、五蘊のうちの行の新解釈から、ゴータマ思想の全容を解明する。

単行本: 228 頁
出版社: 春秋社
発売日: 2021 年 8 月 20 日

ISBN-13: 978-4-393-13451-1
言語: 日本語
定価: 2,420 円(税込)

「家礼」実践』は、正確な史料読解と地道な調査研究にもとづいて、



松川雅信研究員

近世日本社会研究において儒者たちが『家礼』に記載された儒教儀礼にどう取り組んだかを思想的に明らかにしようとした労作として、評価されました。

授賞式には、55名の出席者があり、各々の受賞者を讃えました。なお、例年インド大使館で開催されておりました祝賀会は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止となりました。

令和3年11月20日（日）開催 東方学院・酬仏恩講合同講演会 同講演会

於 奈良・薬師寺

第21回東方学院・酬仏恩講合同講演会が、奈良・法相宗薬師寺のまほろば会館にて行われました。

永井良樹先生（内科医学博士）をお招きし、釈尊が三界に存在する生命を『補特伽羅（ブトッガラ）』という語句で語られた大変奥深い生命観と現代の問題についてご講演いた

できました。当日は34名の方のご参加がございました。

なお、アジア派遣留学のプログラムも止まっていますので、感染拡大防止のため、東方学院の留学生の方々からの基調講演は延期となりました。



【今後の行事のご案内】

★法恩寺佛教文化講演会

高松市の法恩寺と共催している芸術や仏教文化に関する講演会です。申込者はどなたでもご参加いただけます。

開催時期…令和4年5月中旬
会場…法恩寺（香川県高松市鹿角町675-3）
講師…未定

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせ致します。

また、新型コロナウイルスの状況によっては開催中止となる場合がございますことあらかじめご了承のほどお願いいたします。

★神儒仏合同講演会

神田明神、湯島聖堂と共催の講演会で、申込者はどなたでもご参加いただけます。

開催時期 令和4年7月下旬
会場…神田神社祭務所ホール
講師…未定

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせ致します。

また、新型コロナウイルスの状況によっては開催中止となる場合がございますことあらかじめご了承のほどお願いいたします。

2022年度東方学院の

受講申し込み受付中

4月から開講する、東方学院の受講申し込みを、只今受付中です。

資料をご希望の方は、お気軽にご連絡をお願いいたします。

また、専用ホームページでも詳細をご案内しておりますので、下記もご参照いただけます。たら幸甚です。

東方学院専用ホームページ
<https://www.toho-gakuin.org/>

新 刊 案 内

S. ラーダークリシュナン著 山口泰司訳

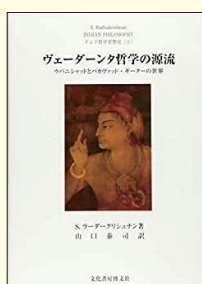
『ヴェーダーンタ哲学の源流

—ウパニシャッドとバカヴァッド・ギーターの世界—

本書は近代インド最大の世界的碩学S. ラーダークリシュナン教授の『インド哲学』の抄訳。原著は複雑多岐にわたるインド哲学の展開を、上下二巻で思想の一筋の伝統として辿ることで、インド思想の古典的註解を提出している。

文庫：439頁
出版社：文化書房博文社
発売日：2021年1月1日

ISBN-13：978-4-8301-1320-8
言語：日本語
定価：本体5,500円（税込）



事務局通信

【編集部より】 東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。また、ご寄稿もお待ちしております。尚、ご連絡は手紙（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000 円

・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受けた「公益財団法人」であり、さらに、令和2年3月27日に「税額控除」対象法人の要件を満たす証明書を内閣府より受けましたので、上記（1）（2）の一般ご寄付及び維持会賛助会の会費は、税制上の優遇措置を受けられます。①「所得控除」②「税額控除」のいずれか減税効果の高い方を選択できます。

多くの場合、「税額控除」を選択されると所得税額が少なくなり有利となります。一方、所得税率の高い方は、「所得控除」を選ばれると還付額が大きくなる場合もあります。確定申告の際には最寄りの税務署にご相談ください。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶専任研究員紹介、書籍案内
- ▶公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど

東方学院専用ホームページ URL :

<https://www.toho-gakuin.org>

（スマートフォン対応）

東方学院

検索

- ▶東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 令和3年度 後期号（通号第39号）

令和4年2月15日発行

【編集 / 発行】公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局（東京）

編集責任者：釈悟震

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082